みきの交通事故概要

令和７年１月末

交通ルール　わたしが守る　三木のまち

1　交通事故発生状況

1　三木の事故発生状況　（1月中）

区分	人身件数	死者数	傷者数	重傷	物損件数
7年	24	0	34	3	232
6年	24	1	30	3	175
前年対比	±0	−1	+4	±0	+57

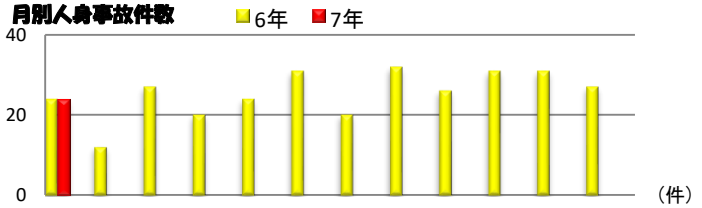
2　三木市の事故発生状況累計　（1月末）

区分	人身件数	死者数	傷者数	重傷	物損件数
7年	24	0	34	3	232
6年	24	1	30	3	175
前年対比	±0	−1	+4	±0	+57

まだまだ通勤通学、下校帰宅時間帯に**薄暮**の時間が重なります。**早めのライト点灯**継続を（３～５月は17時から推奨）！

2　人身事故の特徴

1　月別人身事故件数



区分	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	合計
7年	24												24
6年	24	12	27	20	24	31	20	32	26	31	31	27	305
前年対比	±0												

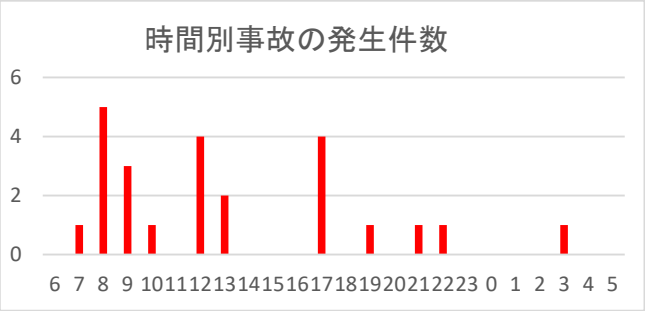
2　事故類型別　（件）

区分	車両対		車両相互						車両単独	合計
	人	自転車	小計	正面衝突	追突	出会い頭	右左折	その他		
件数	2	1	20	3	7	6	3	1	1	24
死者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
傷者	2	1	30	6	10	9	3	2	1	34

3　道路形状別　（件）

区分	交差点	交差点付近	単路	その他	合計
件数	13	5	5	1	24
死者	0	0	0	0	0
傷者	18	9	6	1	34

4　時間別



5　曜日別　（件）

区分	日	月	火	水	木	金	土	合計
件数	4	2	6	3	7	1	1	24
死者	0	0	0	0	0	0	0	0
傷者	8	3	6	4	11	1	1	34

小学校入学の時期に備えましょう

～交通安全は家庭から始まる～

小学生になると子どもたちの生活は大きく変わります。これまで常に親とともに行動していましたが、登下校や外遊び等親の目から離れた生活がスタートします。

しかし、大人が思っているほど子ども達は交通ルールを熟知しておらず、「信号は青で渡る」程度しか理解していません。勿論、一人での行動に不慣れです。急に交通社会にデビューすれば、事故に遭う危険性が高くなります。

今の時期から、入学までの間に親が子どもと一緒に通学路等を歩いて、どこがどのように危険なのか、危険を避けるために何をしたらよいか、具体的に教えてあげましょう。

6　交番別　（件）

区分	大塚	本町	別所	細川	口吉川	前田	御坂	吉田	自由が丘	緑が丘	吉川	合計
件数	6	5	3	0	0	0	1	1	6	1	1	24
死者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
傷者	9	5	5	0	0	0	3	1	8	1	2	34

7　学年別傷者数　（人）

区分	幼児	園児	小学生							中学生				高校生			
			小計	１年	２年	３年	４年	５年	６年	小計	１年	２年	３年	小計	１年	２年	３年
7年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
6年	0	0	3	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
前年対比	±0	±0	−3	−1	±0	±0	±0	−1	−1	±0	±0	±0	±0	+1	+1	±0	±0

8　高齢者関係事故

区分		高齢者関係事故			高齢者の死傷者	
		件数	死者	傷者	死者	傷者
三木	7年	9	0	12	0	5
	構成率	37.5%	0%	35.3%	0%	14.7%
	6年	12	1	15	1	8
	構成率	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	26.7%
前年対比		−3	−1	−3	−1	−3
県	7年	461	3	540	3	256
	構成率	39.2%	37.5%	38.3%	37.5%	18.2%

9　自転車関係事故

区分		自転車関係事故			自転車の死傷者	
		件数	死者	傷者	死者	傷者
三木	7年	1	0	1	0	1
	構成率	4.2%	0%	2.9%	0%	2.9%
	6年	2	0	2	0	2
	構成率	8.3%	0%	6.7%	0%	6.7%
前年対比		−1	±0	−1	±0	−1
県	7年	280	1	281	1	270
	構成率	23.8%	12.5%	19.9%	12.5%	19.1%

家族で交通安全

子どもは大人のまねをします。普段から大人が交通ルールを守って見せましょう。

まずは「止まる」「見る」「待つ」を習慣付けましょう。（飛び出さず止まる、右左右を確認して、車やバイクや自転車が来ていたら通り過ぎるか止まってくれるのを待つ）

信号が青でも右左折車両が来るかもしれないので、右左右を確認して、渡りきるまで安心しない。

車から自分は見えていない可能性があることを教える。

繰り返し何度も教えましょう。